

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 11 月 18 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493200087		
法人名	有限会社 ウェルケア		
事業所名	グループホームやすらぎ白島		
所在地	広島市中区白島九軒町16-6 (電話) 082-222-3444		
自己評価作成日	平成24年10月31日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成24年11月16日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>中区にありながら、緑に囲まれ、近くに人を感じることができる適度な広さです。理念と好縁会生活づくり10カ条を基本にし、まずは『人らしい』、そして『その人らしい』落ち着いた生活を送っていただけるよう支援させていただいています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>当事業所は、新幹線「広島駅」から車で2～3分の市街地に位置し交通の便には恵まれている。マンション、集合住宅等に隣接するものの、東側には太田川の支流や河川公園の緑が眺望され心安らぐ恵まれた環境下にある。又、経営母体は医療法人で、10数カ所のグループホーム、デイサービス、訪問看護等の介護関連施設を運営されていて、医療連携、グループ施設との連携は新設事業所としては頼もしい資源の一つとなっている。職員の皆さんは、白島地区で「初めてのグループホーム」という事で周囲の期待と関心を一身に集め、心身の活動的「生活」を最重点の取り組み事項と定めて、都心部に於けるグループホームの在り方＝「白島モデル」の確立に日々取り組まれている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体としての”生活づくり10カ条”を定め、職員全員に周知するよう、朝の申し送り時に確認している。	法人理念に基づく「生活づくり10カ条」を掲げ、毎朝唱和し徹底を図ると共に、全職員で話し合い、年度重点方針・具体的取り組み事項を定めて、3～4カ月毎にミーティングを行い、その進捗状況を証左し乍、理念が実践に活かされるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	開所間もないため、地域行事への参加実績はないが、来年度からは、地域行事への参加などの企画をしている。また、運営推進会議に地域住民の方の参加を仰ぎ、地域との連携を図りたいと考えている。	当年4月開所のため、まずは事業所の存在とグループホームとは何たるかを、近隣の方々に知っていただく活動を行ってきたが、是からは地域行事・事業所行事への相互参加や地域役員との交流を通じ、日常的に地域の方々との交流を促進するよう取り組んでいる。	町内会への加入や、災害発生時の緊急避難場所として、隣のマンションのエントランスホールやお寺を避難場所として活用できるようにご協力をお願いしたり、散歩時には河川公園の塵を拾う等の地道な地域密着活動を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	介護保険制度の案内や、認知症に関する情報の発信者として、地域の方々に周知されるよう働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の民生委員や地域包括支援センターの職員の方々に参加していただき運営状況などの説明や、また、地域の実情などを伺い情報交換を行いながら、事業所運営を行っている。	定期的に開催される運営推進会議では、地域包括支援センター職員、住民代表、家族代表、事業所職員の参加の下、事業報告や情報・意見交換が行われ、関係者相互の協力体制の構築とサービスの向上に活用されている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	保険者が主催する集団指導や地域で開催される研修等には積極的に参加し、得られた情報などは職員に伝達しサービスの向上を図っている。	市の介護関係の職務を経験された方が、介護支援専門員として勤務されていて、市町との太いパイプ役となり協力関係が出来上がっている。又、管理者も現況に甘んじる事無く、自らも市町の担当者との協力関係を築くよう努力されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人全体で、身体拘束に関する研修を行い、拘束行為が人権侵害に当たることを職員に周知している。</p> <p>玄関の施錠に関しては、利用者が開錠可能なため、徘徊などのリスクのある利用者については、見守りを強化したり、センサーなどの機器を活用している。</p>	<p>身体拘束をしないケアの実践については、定期的研修を実施し、言葉による拘束についてもケース・スタディを行う等職員への周知徹底を図っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職員が精神的に安定した状態で業務が遂行できるよう労働環境に配慮し、利用者とは良好な関係が築いていけるよう全員で取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>制度についての知識の習得は、法人研修や介護支援専門員を通じて、常に活用できるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>管理者・介護支援専門員がホームの利用などについては、利用者・家族の理解が十分に得られるよう説明を行い対応をしている。また、不明な点や苦情等については、法人全体の問題として、迅速に対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議にご家族の参加を仰ぎホーム運営に関する意見などを伺っている。ご家族の苦情・要望などがあれば、その都度対処し、必要があれば職員全員で協議する時間を設けている。</p>	<p>家族の意見・要望は面会時の対話を重視し、忌憚のない意見聴取に努め、海外や県外に住まわれている家族については手紙や運営推進会議議題を送付し意見の聴取を行っている。聴取した意見・要望はミーティングで検討し、運営推進会議に於いて報告されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に1度職員ミーティングの時間を設定し、意見交換を行い良質なサービス提供に努めている。</p> <p>また、法人全体の管理者会議などでも各事業所間の意見交換を密に行っている。</p>	<p>管理者は、誰もが自由闊達に意見を述べ合うと共に、常に問題意識を持って事に当る職場作り、雰囲気作りに努力され、職員の意見・要望の一つ一つに真摯に向き合い対応されている。又、法人の管理者会議に限らず、随時上層部への報告も行われている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>管理者が各職員を個別に面談時間を設けコミュニケーションを図っている。</p> <p>業務の性質上休憩時間の設定がしにくい職場環境ではあるが、効率的に業務をこなしリーダーを中心に声をかけあい休憩時間をとっている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内研修において、各個人のスキルに応じた研修をプログラミングし全体のスキルアップを目指している。</p> <p>また、外部の研修参加は積極的に参加を促し、職員全体のレベルアップを図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>当法人が関係する非営利法人があり、そこでの活動を広げている。10月に、NPO法人主催の講演会やシンポジウムを行い広く同業者に呼びかけを行っている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>短時間にホームに慣れていただけるよう入所前に面談など充分に行い、不安なくホームに入所できるよう配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入所前の家族の介護負担に対し、十分に傾聴し介護の困難さを理解し受容する。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入所前に面談し、介護支援専門員がアセスメントを適切に行い、ニーズを分析し個々に対応したサービス提供できるようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>職員は入所者と生活の場を共有する生活者の立場で関わりが持てるように関係性の構築に努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族との連携を密に行い、利用者に関する情報を共有し、本人と家族の関係が良好に推移するよう積極的に調整に図る。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>友人や親戚など顔馴染みの面会者が訪れやすい環境をつくる。 また、他の入居者の不安を考慮し声かけなど配慮する。</p>	<p>友人や親戚の方々が頻繁に訪れ、馴染みの人々との関係は保たれている。訪問される方々が気軽に、継続的に訪問出来るよう環境作りに腐心されている。又、利用者から神楽が見たいとの要望があり、馴染みの場所等の関係の継続にも取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の会話については、困難な場面も多いが、自然に会話が弾むような雰囲気を作り職員が支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院などで退所となった場合でも、できる限り本人の面会したり、家族の相談を受けたりと関係の継続を図るようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの意向確認を行い、利用者の意思の尊重を最大限に行い個別対応を心がけている。	各利用者は、比較的に意思表示や思いを明確に表せる状況にある。従って、今のうちに利用者一人ひとりの「思い」「意向」をしっかりと把握し記録に留め乍ら、新しい生活に慣れ、心安らかな日々が過ごせるようにと支援されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前に関係していた事業所等との連携を図り情報の収集に努めると共に、本人・家族からの情報も時間をかけて得る努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員間の申し送りを適切に行い利用者の一日の生活情報を継続的に共有できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>サービス計画作成者の独断で計画作成されることがない様、また職員や家族の価値判断が反映されるよう、利用者をつとめよく人的資源とのコミュニケーションを大切にしている。</p>	<p>介護計画作成に当っては、担当職員、家族、利用者、介護支援専門員が充分意見を出し合い、相互に理解納得の上で作成し、モニタリングについても職員全員がしっかり行い次回の介護計画作成に活かされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>記録は個別に実施し、職員全員で共有している。記録内容に関しては、介護支援専門員がモニタリングなどに反映している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ変わるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>各利用者に生じる多種多様なニーズに対し対処できるよう、職員内での連携や協力を全員が心がけている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>開所からの日が浅く、地域資源の確認が充分成されていないが、今後は公民館のイベントや地域の行事等への参加も検討している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ホーム連携医もいるが、入所前のかかりつけ医に受診希望の利用者もいる。また、急性期医療については、家族と協議し適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>本人や家族の希望されるかかりつけ医の受診については、原則として家族が対応され、時に職員が対応する事もあるが、いずれにしても医師、家族、職員の間で情報の共有に努め、週1回のホーム医、及び訪問看護の往診等も活用し乍ら適切な医療支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>医療連携加算を算定届出をしており、グループ法人に訪問看護STより毎週訪問を受けている。また緊急時には常時連携がとれる体制下にある。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が関係する急性期病院との連携は常にとっており、日常的にも地域医療連携室とは連絡を取り合っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約を結ぶ際には、重度化に対する対応や終末期の医療等について、相互に細かく確認している。</p>	<p>入所時、事業所として終末期の対応や方針を説明して覚書を交わしている。又、今後そのような状況を迎えた時の備えについて職員間で話し合い、在宅における対応可能なサービスの在り方、及び方針の共有を図っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>グループ法人内に医療機関があり、医師や看護師の研修等を通じて指導を受けている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>ホームの災害対策マニュアルを作成すると共に全職員に周知を図っている。また、近隣の集合住宅等にもホームの存在の認知を促している。</p>	<p>災害対策については、スプリンクラー、火災感知器、電磁調理器等々のハード面に於いては万全を期し、事業所作成の災害対策マニュアルに従って、避難訓練や連絡体制及び近隣の協力体制の構築に取り組まれている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人の尊厳を尊重し利用者自身のプライドを傷つけることがないように、言葉や態度に注意をしている。	利用者お一人おひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように言動に留意し、常々職員間で留意・研鑽している。又、個人情報の取り扱いについても、守秘義務を充分理解し、責任ある管理・取り扱いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食事の献立やレクリエーションの内容など利用者の意志が反映できるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	各個人のタイムスケジュールを臨機応変に組み、その都度利用者の満足度を確認する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣服の着替え時や、外出時に着用する服や帽子・持ち物など、お気に入りのものを選んでもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	カウンター越しに食事準備の様子を見ながら、作り方の相談をしたり、味見をしてもらったりしている。 また、食材の下ごしらえ（もやしのひげ取り・玉葱の皮むき等）や食事後の食器の片付けなど一緒に行っている。	近隣のお店で調達した食材を、利用者と職員が共に下ごしらえ、味見を行い、調理された食事は美味しく楽しみなものとなっている。又、料理もさることながら、アウトドア・グッズを活用し、時におむすび等を戸外で囲む等、食事場面の演出にも工夫され、食を楽しむ取り組みが為されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量は毎日記録し、利用者に応じた必要水分摂取量を管理している。食事に関しては、他の施設献立（管理栄養士作成）を参考にバランスの取れた献立になるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医師・歯科衛生士による療養管理指導を受けており、定期的にケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	生活行為のリハビリについては法人全体で取り組んでいる。特に排泄については、できるだけ自立を目指している。	「排泄の自立」については、法人母体が重点項目として取り組み、事業所としても排泄パターン及び習慣の把握、表情・動作からの察知、水分摂取量・食べた物等を総合的に考慮し、トイレ誘導による排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分の摂取・食物繊維を多く含む食物・適度な運動など、なるべく投薬に頼らない排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	昼間の入浴を拒否する利用者には、夕方入浴を実施することもある。入浴拒否が続く場合は、足浴等で保清を行っている。	原則は週3回、午後の時間帯に、職員が1対1の介助となっているが、利用者の希望に添い臨機応変に対応している。特に入浴を拒否される利用者については、その原因を探求し、様々な工夫を重ね入浴が楽しいものとなるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	一律に睡眠時間を決めるのではなく、それぞれの利用者にあった生活時間に応じて対応している。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	投薬に関しては、医師・看護師の来訪時には、職員が一人必ずついて状況の説明し、医師・看護師の指示を受ける。また、全職員に周知できるよう申し送りを的確に行っている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	お誕生日会や運動会・花見等季節の行事を企画したり、買い物のための外出やドライブなど、メリハリのある生活を提供する。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	利用者のADLや体調に応じて可能な範囲で散歩やドライブ・買い物などに外出機会を設けている。	日々の外出支援としては、事業所裏の河川公園やすぐ近くのお寺・広場等に散歩に出かけたり、買い物に同行したり等の支援が行われ、縮景園での観桜、紅葉狩り・大和ミュージアム・自分たちが折った鶴を持って平和公園に出かけたりと多彩な外出支援も行われている。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	現在の入所者は、ほぼ金銭管理はご家族が行っている。一人だけ、財布の所持を希望利用者があり、小銭が入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人・家族からの要望があれば、職員が支援し、手紙代筆や投函・電話をかけるなどは出来るようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>バリアフリーで車椅子に対応できる空間を設けている。 特に浴室は家庭での入浴同様に個浴槽にしている。 各部屋は、窓からの採光が充分に取れるように設計されている。</p>	<p>リビングからは太田川や河川公園の緑が臨まれ、季節を感じ乍らゆったりと寛げる空間が確保され、4ピースに分割し、高低差のあるリビングのテーブルとか、3カ所のトイレ等、利用者・職員の動線や体型を考慮した設備や備品が備わり、居心地良く過ごせる工夫が随所に見られる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングには、利用者の思いのまま移動したり会話したりと、自由な空間となっている。今後は、部屋のレイアウトなども考えて、癒される「色」のあるリビングをレイアウトしたいと考えている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>利用者が馴染みのある家具や仏壇などを持ち込まれている。 しかし、限られた空間なので、荷物の持ち込みなどには、ご家族の協力を得て季節ごとの入れ替えなどを行っている。 また、家具の配置については、地震などを想定し、ドアの開閉に支障がないように考慮している。</p>	<p>利用者の体格に応じて、高さの調節が可能な電動ベッド、空調機器、緊急連絡ベルが備え付けられ、使い慣れた物や馴染の物を持ち込んで、気持ちよく又さっぱりとした環境下で過ごせるようになっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりの設置、車椅子が移動できるスペース、食卓・ソファの位置など、できるだけ自分で移動可能な環境を目指している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームやすらぎ白島

作成日 平成25年1月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	29	今年4月で開所1年を迎え、入所者の方々も落ち着きを持ち始め、地域との連携を強めたい	地域の方々にホームの存在を周知してもらい地域の中での介護保険窓口としての機能を果たす。	地域女性会の見学受け入れや、ボランティアの協力（コンサート・傾聴など）を予定。広報誌を作り、地域に配布	6ヶ月
2	13	職員の介護スキルや認知症に関する知識等に差があり、介護技術を標準化するのが困難。	研修を定期的を実施し、認知症に関する知識・介護技術の習得に努める。	月に1度は、職員研修を実施する。毎日朝のミーティングに於いて、具体的な介護方法について話し合う。	1年
3	19	家族が遠方に居住している利用者については、家族の支援が受けにくい	電話や書面などによる連絡を密にし、無理のない程度に来所し入居者との関わりをお願いする。	月に1度、ホームの様子を載せた新聞を作り送付する。広報委員を職員間で組織し、記事を検討する。	3ヶ月
4	12	職員の就業環境を整え、職員の定着を図りたい。	職員全体がモチベーションを高く持ち、個人々が創意工夫しながら就労する仕事場になる。	各委員会を組織し、自主的に仕事に関わる体制を築く。個々の職員が自由に意見を発言できる雰囲気を作る。	1年
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。